

令和6年第1回大河原町総合教育会議議事録

日 時：令和6年2月20日(火) 午後1時30分～3時00分

場 所：大河原町役場 2階 第1会議室

出席者：大河原町長 齋 清志

大河原町教育委員会

教 育 長 鈴木 洋

委 員 舟山 幸枝 一盃森 広志 丹羽 宜博 片倉 亜寿香

教育総務課 課長 櫻田 尚 学校教育専門監 小野寺 淳一 課長補佐 小野寺 堅一

生涯学習課 課長 木村 武俊

スポーツまちづくり推進課 課長 前元 一也 主幹兼スポーツ施設管理係長 橋本 光

事 務 局

総 務 課 課長 菊地 仁美 課長補佐 伊藤 敏之 主幹兼庶務人事係長 泉 大輔

(事務局)

それでは、令和6年第1回大河原町総合教育会議を開催したいと思います。初めに大河原町長 齋 清志よりご挨拶を申し上げます。

(齋町長)

はい、皆さんこんにちは、総合教育会議のご出席ありがとうございます。また日ごろ教育長はじめ教育委員の皆様方には本町教育行政全般にわたりまして、また力を入れている学力向上を主審とした教育ブランド化に向けて大変なお力添えをいただいておりますこと、この場をおかりして御礼申し上げるしだいでございます。片倉委員さんは今日初めてということで、どうぞリラックスしてお願いいたします。私事のような話ですが、町長の仕事をさせていただいていて強く感じるものがいくつかありまして、困った話を先にしますと、いろんな意味で格差が広がってきていて実は自治体間の財政基盤を含めた様々な格差というのが生まれてきていまして、連携とか協力とか共同といったことが、簡単には進まないという現実が生まれてきていると考えていまして、教育の現場はどうかと考えてみます。教育長とはお話しさせていただきますが、やはり自治体間で相当格差が広がってきている状況、つまり子供達の学習環境に、これはお金の問題も含めてですが、しっかり対応できているかどうかということが非常に大きな課題になってきているのではないかと心配をしているところです。うちの町はその格差で悪い方にいかないように頑張っていきたいと思っておりますが、格差自体は果たしてどうやって埋めていったらいいのか非常に悩ましい問題です。それからコロナ禍があって誰もが多分認識したことのひとつだろうと思いますが、人と人の繋がりとか、人とその人が住まう地域との繋がりとか、地域と地域の繋がりということの大切さということが教訓として皆さん感じられたのではないかと受け止めておりまして、その事、ウクライナ紛争とか中東、今の戦

争とか、そういうこともありまして、様々な世の中の流れもあるわけですが、本来どの自治体においても社会全体としても大事にされていかなければならないことがあるはずだということを考えてきました。その考えが集約されたものが、いま町が掲げている Well-being な町づくりに誰もが心身共に健康で、社会も健全で幸福な状態が継続する。我々の仕事もこれを目指していると言っていいのではないかと考えておりまして、Well-being な町づくりに繋がる取り組みとしてスポーツを活用しています。に、いま力をいれているところです。当然スポーツは文化もそうですが、人を繋ぐという力がある。そのことを改めて信じたいと考えておりまして、今日はスポーツまちづくり推進課の課長、係長も出席させていただいておりますが、今年度から町長部局に町づくり、さらにその先にある人づくり、そのものに果敢に挑戦していこうとしたところです。本日は『中学校の部活動の地域移行について』が会議のテーマで皆さんのご意見も聞かせていただいていると思っています。それと合わせて今話したような地域の課題解決あるいは町づくり、人づくり、そういう視点でのご意見を聞かせていただければありがたいと思います。また、どうしても、『運動部』ということに目が向きますが、『文化部』ということもあって『文化』という事を考えたときに住民参加型総合施設として『えすこホール』がありますが、もっと沢山の人の活用されているのではないかと考えておりまして、『えすこホール』にかかる人材その方の力をお借りしてもいいのではないかと考えておりまして、そのことについてもご意見いただければと思います。本日の会議年に一回だけですので是非有意義な会議にさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

(事務局)

ありがとうございました、続きまして、大河原町教育委員会 鈴木 洋 教育長より、ご挨拶をいただきます。

(鈴木教育長)

改めましてこんにちは、本日の総合教育会議のテーマでもあります、『中学校部活動地域移行』につきましては、これまでの中学校教育のあり方を根底から覆すほど大きな改革だと私は思っております。宮城県では令和5年度準備検討期間ということで、令和6年度から改革推進期間としておりますが、令和6年度から着手できる自治体は県内では3割程度ではないかと、そういう見方もあります。大都市を中心に多くのスポーツクラブが存在する自治体では一部先進的な取り組みを進めているところもありますが、大部分の自治体では手つかずの状態であり、一方熊本市では部活動継続存続を明言しておりまして全ての自治体が同歩調で歩みだすということは非常に困難である。そういう状況だと捉えております。財政面でも当初国の方では経費負担をうたっておりましたが、いつの間にかその声は消えまして、各自治体でどうぞ、というようなスタンスに代わってきております。本町では齋町長の深いご理解のもとで一般財源の方からこの『地域移行』の経費の支出を御認め頂いておりますので、手作りではございますが、休日の地域移行から一歩一

歩進めて参りたいと考えております。角田、岩沼等では、民間の企業に委託するという話しもございまして、角田市では1年間に2千万位支出するのではないかと。私達の方ではそれよりも400万～500万位少なくですね、できるのではないかと。人件費を入れてですね、そういう想定でしておりますが、いちばんの問題はやはり外部指導員の確保でございます。今後地域の皆様のみならず、中学校教員の兼職兼業、小学校の先生まで広めたいと思っております。できれば、役場職員にもお手伝いいただければと思います。町長よろしく、土日の部活動に協力していただける役場の職員にもお声がけをいただいて地域移行休日の部活動の地域移行を遂行していきたいと考えております。この取り組みの詳細につきましては後ほど小野寺専門監の方からご説明申し上げますが、やればやるほど課題が見えてきまして山積しておりますので様々なご意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。それではここで本日の会議に出席されている皆様を総務課長の菊地よりご紹介させていただきます。

(菊地課長)

はい、それでは、出席されている皆様をご紹介します。皆さん存じあげていると思いますが、年度初めての会議でございますので改めてご紹介させていただきます。まず初めに、町長 齋 清志、教育長 鈴木 洋、教育委員会の委員の皆様をご紹介します。船山 幸枝委員、一盃森 広志委員、丹羽 宜博委員はまもなく到着すると思いますので後ほどご紹介させていただきます。片倉 亜寿香委員、次に教育委員会の職員をご紹介します。教育総務課長の櫻田 尚、学校教育専門監 小野寺 淳一、課長補佐の小野寺 堅一、生涯学習課長の木村 武俊、課長補佐の小野 宏につきましては都合により欠席でございます。続きまして、町長部局の方に移ります。スポーツまちづくり推進課長前元 一也、主幹兼スポーツ施設管理係長橋本 光、ただいま丹羽委員がお見えになりました。

(丹羽委員)

教育委員の丹羽 宜博でございます。

(菊地課長)

最後に事務局、総務課長補佐の伊藤 敏之、主幹兼庶務人事係長の泉 大輔、私、総務課長の菊地 仁美と申します。どうぞ本日はよろしくお願い致します。

(事務局)

それでは議事に入らせていただきます前に、会議の議長について決めさせていただきます

ます。会議の進行議長につきましては、大河原町総合教育会議の設置等に関する要綱によりまして、『町長が務める』ということになっておりますので、議事の進行につきましては町長にお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

(齋町長)

はい、分かりました、それでは議事に入らせていただきますが、しばらくの間進行を進めさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

(1) 部活動の地域移行について 説明をお願い致します。

(教育委員会事務局)

それでは資料をご覧くださいと思います。部活動の地域移行について基本的にこれまで休日を含めて学校の先生方に部活動を見ていただいていたのですが、休日学校の先生が部活の参加をせずに外部指導員として地域のスポーツ少年団の方、競技団体の方々にご指導いただく体制を作っていくということで、いま地域移行が進んでいます。教育長からもお話がありましたが、自治体ごとに取り組みを進めているところでありまして、自治体によって進行状況がいま大きな差が出ているのが現状です。それでは資料の6ページ7ページをご覧ください。『部活動に関する生徒保護者アンケート』という、令和4年度に実施したアンケートです。子供達はやはり自分達の学校の部活動で活動したいと。他の地域に伺うこともあります、今のところ自分の学校の部活動に加入したいと考えている子が65%を占めておりまして、基本的には学校の部活動でやりたいと考えている子供が多いというのが現状です。『保護者アンケート』の方に進んで、8ページ9ページになります。保護者の皆様は地域移行について基本的に賛成をいただいている方が多く、教育の働き方とか少子化等々の現状を踏まえて地域移行をやむを得ないと捉えていると思います。そのなかで心配されていることは、地域移行になった時に学校以外の場所で部活動するとなった時に送迎が非常に難しいのではないかと。費用負担というところも心配されている保護者の方が多いということがこのアンケートから分かりました。それに伴って大河原町としてはまずは今ある部活動の形を基本的に維持する方向で地域移行を進めていきたいと今進めております。形としては平日は基本的に今までどおり学校の先生にご指導いただく。休日は教育委員会が派遣する外部指導員の方を学校の活動の場所に指導員を派遣してそこで今に近い形で活動ができるようにしていくということで今進めています。11ページご覧ください。令和3年度から地域移行に関する会議をスタートしまして、今年度12ページに進みまして、令和5年5月には『広報おおがわら』に地域移行に関する調査の結果を掲載させていただいております。それから併せて5月には地域移行に関する会議を実施し、9月には地域移行推進協議会を開催させていただきました。今のところ子供達、保護者の皆様に対して地域移行というものがどういうものなのかというところを周知のための説明会を開催させていただいているところです。併せて外部指導員の方を探しているところです。令和6年度当初からスタートでき

そうなのが、『ソフトテニス』『卓球』『バレーボール』この中には6年度当初から外部指導員の方がついてスタートできそうかなという状況ですが、まだまだ外部指導員の方が見つからないという状況で今後少しずつではありますが、外部指導員の方を派遣できる形を進めております。今、小学生にも説明をしているところで、そのなかで小学生の保護者、生徒児童にも言っていることは、「中学校の部活動が任意に加入になってきている」ということを併せて説明をしています。金ケ瀬中学校も、大河原中学校も今、任意加入になっておりまして、今のところ9割前後の生徒が加入している状況ですが、今後任意加入がより認知されていくと、部活動地域移行と相まって加入率は徐々に下がっていくというところが予想されるというのが現状です。

(齋町長)

はい、小野寺専門監から中学生の受け止め、それから保護者の考え方、不安、これまでの経緯、お話にありましたが、何をどう進めたらいいか、なかなか難しいなというところですが、まず、教育委員の皆様方から地域移行について一言ずつ感想でも構わないですが、あるいはご意見、受け止め、その他なんでも結構です。一言ずつお願いできますでしょうか。舟山先生からどうでしょうか。

(舟山委員)

はい、地域移行の動きが出てきたことを考えるときにですね、私としては例えば、すぐというわけではないんですが、金ケ瀬中学校ですと、生徒数の関係上、部活動の種類は少ないですね、例えば子供達の希望を叶えてあげるような方策として、土日のその地域移行でもいいチャンス、いい機会だなと思っておりました。学校に限らず、大河原中学校、例えば地域で町の子供達を見るという趣旨で金ケ瀬中学校の子供達一緒に、こう活動できるような場ができたらいんじゃないかなあと思っておりましたが、それにはこのアンケートによるとやっぱり、一番の問題はどこでやるかによる、親達を送迎の問題一番心配しているようなので、もしできるならば、町辺りで、スクールバスという大げさでなくてもいいですが、金ケ瀬中学校から大河原中学校まで移動手段を確保してあげられたら子供達にとっては、大いにプラスになるのではという思いでいました。ゆくゆくは部活動がどういう形に変化していくか分からないですが、将来的には平日の部活動を合同でやれるような体制になれば理想だなと私は思っておりました。今すぐではないが。そのためにはやはり同じ当局からのご理解と協力がいっぱいいただかないと実現しないかなあと考えておりました。

(齋町長)

はい、ありがとうございます。一盃森委員お願い致します。

(一盃森委員)

はい、部活動、どのみち地域移行ということを、どこからどう見ていったらいいかな、という、いろんな要素側面があるかなと思うわけで、ひとつは先生方学校の教員の働き方改革という側面がある。だから少子化という、いま舟山先生がおっしゃったように、金ケ瀬中学校に関わらず日本全体が少子化であるというなかで、この先子供が増えていくのか減っていくのか分からないが、いずれにしても少ないことには変わりなくて、そのなかで学校単位で部活動を重点のように継続していかなければと非常に難しい問題なのかなと。そのことの裏返しでクラブ、スポーツというのを現にここでも実際そういうところで活動している、だから学校の部活には入らない、その点をどう考えるか。それから先ほど町長がおっしゃったように、Well-being もそうですが、スポーツを核とした町づくりと地域づくり町づくり、人と人との関わり作りをどういうふうに構想して考えていったらいいか、いろんな側面アプローチをしていく部分、視点、観点、いっぱいあると思うんです。そのなかで議論をどこから進めていけばいいか整理して進めていかなければならないと思うが、そのなかで、5 ページに書いてありますが、そもそも、学校教育はというと、教育課程との関係という文の中で、3 行目の一番最後、『まずは、学校や地域の実態に応じて』と書いてあります。なので無理なことをしないでね、と書いてあるんです。下の行の最後から『持続可能な運営の体制が整えるまで』と。大河原町が、単独でこれを進めていこうとするのか、あるいは、この第1 項の『地域移行について』近隣仙南2 市7 町連携したうえで広域的に進めていくのか、その辺随分違うと思うんですが、いずれにしても、『持続可能な体制を整えてください』と明言してあるんですから、ここを大事にしながらじゃないと、話しが違うんじゃないですか、ということになってしまいかねないのでは。要素の中のひとつでさっきひとつ言いませんでしたが、新聞記事のコピーありますが、写真の所に書いてありますが、中体連の動きということについても、考えなければならない要素のひとつですね、中体連はご承知のとおり県の中体連もあれば、その上部の団体もあるわけですね、東北地区、全国大会まで繋がっていく組織になっていっているんですから、そことの関係性を念頭に入れていかなければならないということもあるのではという思いでいまして、さて、どこから議論を進めたらいいかというところでいます。

(齋町長)

はい、ありがとうございます。丹羽委員お願い致します。

(丹羽委員)

はい、4 ページの、いま大河原町中学校頑張っていますよね、もちろん金ケ瀬中学校も頑張っていますけども、要するに学力とスポーツは大体一緒というか、学力が伸びるとスポーツも伸びるんですよね、なので是非ともスポーツを伸びていただくには学力も、ということになるわけですが、今専門監の話しですと、『ソフトテニス』『卓球』『バレーボール』それだけが外部にお願いできる状況だと。他は難しいんです、と。今のところ。それで

私思うんですが、親達は子供達のスポーツを応援しているわけですね、なので外部にお願いできない場合は土日とかどうしても試合が近いとか、やりたい、という場合とかは、親が見ていただいて、指導ができなくてもですよ、万が一何かあればそれに応じて対応すると、先生なり、怪我をすれば救急車を呼ぶとか、そういう方法と保険を充実させていけばある程度対応できるのではないかと思います。勿論指導員がいらっしゃればいちばんいいわけですが、もし指導員がいらっしゃらないということであれば、親にお願いして、部員が当然いるわけですから、その中で上手くやっていただくのがいいのかなと、それは送迎は自分の子供だけでいいわけですから、そういうふうになればある程度対応できるのかと思います。

(齋町長)

はい、ありがとうございます。では片倉委員さんどうぞ。

(片倉委員)

はい、地域移行は賛成ではありますが、子供達に大会とかコンクールに参加して中学校3年間の思い出を作ってほしいなあだったり、達成感だったり、自己肯定感高めてほしいなあと思います。なかなか厳しい時代になってきたのかなあと思います。先ほど丹羽先生もおっしゃったように土日をみて専門的な方がいないならば、やはり保護者が現場に居るだけで特に何も指導するわけではなく、現場監督ではないですが、見ていただいて何かあった時に救急車などいろんな保護者を「怪我しましたよ」と呼んでくれる連絡網を作る形でもいいのでは。せっかく一生懸命頑張っているのに、土日やりたくてもやれないというのは可哀そうです。大会が近かったりすると、やはり(練習)やりたいのではないかと思います。

(齋町長)

はい、ありがとうございます。あるべき姿とかばらつきなく進んでいくということが大事なことのよう要素ではありますが、とりあえず大河原町の実情からスタートできる地域移行ということに話を少し絞りながら、でも一方では皆さんからお話しがでたように『町づくり』や『人づくり』あるいは『町の関わり』や『親の関わり』そういった視点でもいろいろご意見をいただいきたいと思います。前元課長どうですか。

(前元課長)

はい、部活動地域移行ということで私も委員になったということですが、皆さんご承知だと思いますが、総合体育館などスポーツ施設今まで指定管理者ということでNPO法人に委託をお願いしていたところですが、今年度公募で新しく指定管理者を選定することになりまして、公募の結果、東京に本社がある大手3社のスポーツ会社『フクシ・エンタープライズ』というところが代表企業ですが、それが3社で共同企業体を結成しまして『おお

がわらスポーツまちづくり共同事業体』という名前で、体育館等のスポーツ施設を指定管理者に4月から委託するようになりました。おそらく角田市で民間委託しているというところは『フクシ・エンタープライズ』が入っているのかなと思っていました。なかなか地域移行は難しいと思いますが、そういった民間の力を借りるのが、専門的な事業所でもあるので、インストラクターや専門的な知識をもっている方がいるので、あと仙台大との繋がりが『フクシ・エンタープライズ』もっているので、そこから講師の派遣や、学生を使ったりそのような部分で今と違ったような取り組みができるのではと思っていました。あと小野寺先生、学校には『クラブチーム』で中体連登録はあるんでしたっけ？

(小野寺専門監)

はい、あることにはなっておりますが、令和6年度については、町関係では出るチームはいないです。

(前元課長)

やはり、子供が少なくなってきた、お話にありましたが、学校によっては1つのチームが作れない学校が出てくると思うんですね、現にそうだと思うんです。その時にクラブチームで登録をして中体連を登録して、中総体に参加されるお子さんが出てくると思うんです。そうすると出場するチームがクラブチームで、学校からではないので、例えば東北大会、全中に行ったときにお金を誰が出すのか？という問題がでてくるんですね。学校ではなくクラブチームから(大会に)出たときの費用負担というのが親の負担になってくるんです。その部分でやりたいことをやらせるのは、これからは部活動も受益者負担になってくると思うんですが、費用がどの位かかるから、やりたいことをできなくなってしまうお子さんもでてくるかと思うんです。そのことも課題のひとつだと思います。少子化対策も含めてもそのことも課題だと思います。地域移行についてはいろいろ課題があるなあと感じておりました。

(齋町長)

行政の取り組みも、役場だけで完結しない時代、『官民協働』とか『民間活力』という言葉、普通に役場内でも使われる言葉になってきているというのは正に大事な視点だと思います。先ほど『町の関わり』とか『親の関わり』も含めて『外部の指導者』の話も含めてというお話でしたけど、これポーンと飛び越えてうちの町でできる問題、やろうとするしない問題ですが、いきなり民間に委託してやっちゃおう！という流れですね。こういうのは正に角田市だけではなく、これからどんどん生まれてくるんだと思うんです。果たしてそれでいいのか？という議論は当然あるかと思いますけど、このへんのところを教育長、現時点でどのように考えておられますか？

(鈴木教育長)

はい、先進的な取り組みとして岩沼市があると思いますが、岩沼市の保護者とか生徒の思いを聞くと、満足度は低い。というような話は聞いております。つまり今まで学校の先生がやっていたような充実した部活動ではなくて、週2回の限定、種目も『野球』ではなくて全体でやる『陸上の基礎練習』とか、そういうもの行われているというような話を聞いていますので、委託してすべての部が満足できるような部活動ができているかどうかという、そうではない、と私は捉えております。そういう意味で角田市が『フクシ・エンタープライズ』に委託してやったときに、どの程度充実した活動内容かという事を、ちょっとみていかなくちゃならないですし、我が町では手作りですがひとつひとつ子供達が満足できるような環境を保護者、指導者等々を確保していきたいなあと考えております。先ほど仙台大学という話がでましたが、推進協議会の中でも松本副学長さんがおりますが、私話し聞きますとやはり仙台大学で学生がするのを見てるんですが、こうやって部活動の協力者となれる学生数は多くて30人位だろうと。それほど多くない。そうするとうちの町に来て、近いので優先的に来てもらえるとは思いますが、多くて4～5人位かなあと考えております。それでも学校教員の兼職兼業として学生地域の方々と大体うまくいくと8割位埋まるかなあと、出来ないところが民間の力を借りて派遣してもらう。というような4～5年先見通したプランの持てる、直ぐに1年で完結とか、ということは難しいと考えております。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。令和6年度からスタートできそうなところは3割しかないという中の選択肢のひとつに、民間の力を借りるというのがないと受け止めると、教育長の話にあった、少し様子をみながら、そしてまた、話しを聞いて感じたんですが、クラブ活動ですからね、地域愛が必要なのではというように思います。いろんなひとの愛情が関わるということを大事にしていきたいのと、進行役が意見言う必要ないですが、大変恐縮ですがちょっと感じたことお話しさせていただきました。職員の方で何か話しありますか？

ということで、うちの町に即した実態に応じた話の視点の必要性という事をお話しただきましたが、外部指導員の確保というのは、学生時代にスポーツをやっている、私も勿論やってきましたが、勿論プロは誰もいないですが、セカンドキャリアとまでは言わなくても、これだったら教えられるとか、これだったら今でも興味持っているよ、とかどの地域でもあると思うんです。そういう人達の力って町づくりや、人づくりにと考えると、もっと積極的に掘り起こして手伝ってもらえる環境を作れたらいいのでは。これは行政の仕事と言われるとこれもまたなかなか難しいところではあるが、そのことについてはいかがですか？結構いるんじゃないかと思いますが。私、卓球やってきたし、バスケやってきたし、山岳部やってきたし、いろいろやってきましたが、伊藤さんなんか野球ね、本人もご子息も野球頑張って、泉さんも野球やっていますね、そうですね、なんかどうですか？そのへん

(伊藤補佐)

はい、そうですね、私もちょっとしか携さわっていませんが、外部指導員は少年野球のチームでも話題になるときに、基準といいますか、誰でもいい、こういう教育、スポーツ少年団だと指導員資格とかがあるので、そのようなのがないと実際に子供達に指導するときに自分でも勉強していないと、学習していないと、昔の昭和の練習なので私がしていたのは、今は全く異なっていると話も聞きますし、そのような情報が必要なのかということもあります。できる限り地域の貢献はさせて頂きたいですが、その為にもやはりそれなりの勉強を要求されるものなんでしょうね、と感じています。

(泉係長)

はい、私もまさに中学生の子供がいて、やはり外部指導員として、保護者として気になるのは、やはりパワハラとか、そのようなところが一番気になります。あともう一つ中学校の部活動、クラブチームということで、スポーツなので親としてはレベルを落としたい、できるだけ上手になってほしいし、勝ちたいし、という気持ちがあります。学校の先生とも話しますが「やはり今後はそうはなっていないよ」とは地域移行の部活動のなかで話もありますが、やはりスポーツなので勝たせたい、部活に入れて上手になって高校でも続けてもらいたいです。そういったこともあるなかでレベルが落ちてしまうとクラブチームだけに強い子が行って、部活のレベルが下がってしまう、そうすると面白くもなんともないスポーツというところが、外部指導員とちょっと話ズレましたが、保護者としては懸念しているところがあります。岩沼市の例もありますが大河原町ではなるべく今の外部指導員もある程度の技術もあって、逆にレベルが上がるような地域移行というようなのが理想形なのかと思います。

(齋町長)

はい、ありがとうございます。今の話のなかで子供達はどこまで行っても主役なんですね。そこから離れてしまうわけにはいかないと感じたところでございます。このような話の流れの中で改めてご意見させていただければと思います。片倉委員からお願い致します。

(片倉委員)

はい、そうですね、子供達で1週間のスケジュールを立てるじゃないですけど、「土日にこういうことをしたい」というのを、3年生と先生が話し合って「土曜日にこういうトレーニングをしたいです」などを出して3年生が中心となって土曜日だったり日曜日トレーニングをこなして、という形でもいいのかな、と。外部の方が入ってしまうと、1からじゃないですけど、今まで慣れ親しんだ平日の動きが出来なくなってしまう。レベルが上がるならいいですが、それだったらずっと見ていただいている顧問の先生と高学年の

生徒が「今度の土曜日はこういうことしよう」「大会に向けてこういう動きをしよう！」という話し合いをする活動もいいのではないかと思います。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。丹羽委員どうぞ。

(丹羽委員)

はい、今の伊藤さんと泉さんの話を聞きまして、「泉さんのお子さんて凄いな」と思いました。お二人の話を聞いていて例えば土日休みだとしても必ずしも行けるとは限らない、行けたとしても果たして人件費を貰っていいのか、自分は親なのに、例えば学生の場合だとバイト料になるのかな、それから指導員の立場、それから親の立場、それから学生の立場でまたいろいろ違ってきますね、人件費など、そこに行ってみ守っているだけでも、それは時間制になりますから、お金も関わってきます。それは絶対必要なことです。学生と指導員と親では全然立場が違う。そのへんのところ経費のことも考えなければいけない。基本的に自分の中学校の時どうだったかなあと、先生はほとんどいませんでしたね。でも怪我しても別に先生もどうってことなかったし、親も「なんでそんなこと自分で(怪我)したんだから～自分で病院行って～」なんてその程度で済んだんです。今はうるさいですよ。やはり親も、お子さんも少ないし、そういうことがないように対応しないと。先ほどの『パワハラが困る』なんてこともありましたし、当然お願いするときはそのような、文章でね、「こういう事は守ってください」とかしなくてはいけないし、いろいろな指導員を集めるにしてもお金はどうかよく分かりませんが、大河原町の『おしらせ版』もありますから、それで募集するのも、それもひとつの方法ですし、もし指導員がいらっしゃらないのであれば、やはり親が見守ってしばらく見つかるまでは安全に部活動ができるように見守っていただくというのが一番いいのではないかと思います。そうすると今のままの状況の中で続けられるんです。暇な先生は「私関係ないんだから、私暇なんだから」と、「ボランティアで来るんだ関係ないんだ」と来ることもできるんです。先生はそれを生きがいに行しているという方も中にはいらっしゃると思いますので。あ、いいですか、昔は部活が好きで好きでという先生がいたんです実際に。今でもいると思うんです。そういう方は『来ると逆に困る』というのではなくて「ボランティアなら構わないよ」という広い受け止め方もあっていいのではと思うんです。指導員が見つからないのであれば親でなんとか交代々見守るとか、やっぱりそこに親は必要ですね。そう思います。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。大河原町で取り組むということでお話しいただいておりますがやっぱり、様々多様化しているなかで、なかなか難しいなと思うところです。一盃森委員お願いします。

(一盃森委員)

はい、とても乱暴な言い方をしますが、競技スポーツと生涯体育といいですか、生涯スポーツ、社会体育的な行い方と2つあるとして、どちらの方向に向かいたいと思っているの？と、それも大事な観点だと思う。それが先ほど5ページと言いましたが学習指導要領の中には競技力の向上は一言も謳っておりません。ここだけ読めば。ただ放課後の部活動、土日も含めて、教育課程外の部分も含めてになるわけですが、そこで受け皿だったわけです、これまでは、それで競技力を高める、試合をして県大会、東北大会、全国大会、というふうに日本で一番を決めるというところまで体制を整えてこれまでやってきたわけですね、なのでそのところを今後どういうふうな方向に軸足というか重点、重きをおいてこの議論を進めていこうとするのか、ということも大事なところかなと思います。大河原町としてはやっぱり親しんでほしい、人と人との繋がりを大事にしながらスポーツを生涯のものとして、あるいは文化として、楽しんで、親しんで、勤しんで、皆で取り組んで健康のことも考えながら、という方向で考えていくという方向性と、一方ではクラブチームのように競技力の向上、試合で勝つということを目標にしながらその過程のなかでいろんな力ですね、『非認知能力』と書いてありますが、人間関係作りも含めてあるいは指導者から言われたことを受けて自分なりに考えて、自分はどういうふうにこの事に取り組んでいったらいいのかと自分なりの目標を立てて、大谷君がこの頃たくさん取りざたされるわけですが、そういうふうなアプローチでも考えていかなければならないかなあと。岩沼市の例、先ほどお話しありましたが、全部お願いするとしたときに薄く広くとなると、それはしょうがないと思うんですね、その時に「いや実は岩沼では競技力向上ということではなくて、小さいうちから子供達にスポーツに親しんでほしい、生涯を通して取り組めるようなものを、そのなかで見つけていってほしいんだ」というふうな立場に立っているとしたら、スタートは物足りないと思うかもしれませんが、何年か先には「いや、あの時ああいう取り組みがあったから今があるんだよね」「今の岩沼市民の姿があるんだよね」となっていくかもしれません。それはちょっと大事なところかもしれません。その中で次の学習指導要領改定の中で、部活動の取り扱いがどういうふうになっていくが分からないが、土日に移行と考えたときに「ん？」と。「どうしていったらいいかなあ」と。どっちかというとならやっぱり社会体育、生涯スポーツ、の方向が強いかなあと競技力の前にまずはそこを大事にしながら競技力向上を目指すようなひとは「こういう環境もありますよ」「経費はかかるかもしれませんが、縛られる部分も多くなるかもしれませんが」、ということを選択するようなことも取り組んでいけるならいいのでは、という事をお話し聞きながら考えておりました。

(齋町長)

はい、どっちを取るかでなくていいわけですね。

(一盃森委員)

はい。

(齋町長)

延長線上にいろんな選択がうまれるし...

(一盃森委員)

はい。

(齋町長)

何を大事にするかによって、取り組みが変わっていいという、はい、ありがとうございます。舟山委員お願いします。

(舟山委員)

はい、一盃森さんの話を聞きながらそうだろうなあと思いながら、例えばスポーツの方面だけなんです、中にはスポーツにあまり関心がない、嫌いという文科系の生徒達の育て方も入っていくのかなあと思ってまして、特にこの地域では文化部育てる意識がありません。親達もあまり関心がないような気がします。そういう面からも、例えばプロの技術を持っているような方達に接することによって子供達が目覚めることもいっぱいあるのではと思います。音楽に限らず、文学や絵画関係でもいいんですが、そういう機会があったらいいなあなんて思って話を聞いておりました、競技にかかわらず。もう一点感じているのは、土日の地域移行のところで、保護者達がね、いっぱい技術を持っている方達が関わりにくいというか、やはり一番は責任の問題を考えるのかなあと思っておりました。何かあった時に怪我したなんて時に責任とるなんていうようなことを心配というか、あるのかなあと思いまして、そういうのは後方支援というんですか、こういうときにはきちんと町で対応しますよと、という研修会等を通して広げてもらえれば、少しは気が楽になるのでは、そういう受け止め方もいるのかなあと思っていました。その研修会等についても費用とか町で補助してあげるなど積極的に参加してもらえるような体制を作っていきたいのかなあと思っておりました。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。予定された時間まであと30分位なんです但最终的に教育長に総括的なお話をいただいて、今後の方向性あるいは現状を、大河原町が取り組めること、さらには様々に不安や課題もあるという状況がお話しされたので、是非お願いしたいと思います。担当で進めている小野寺先生何かありますか？

(小野寺専門監)

はい、先ほど、説明で私足りなかったなあと思うのは、外部指導員が入らない部活につ

いては学校の先生がこれまで通り指導する体制をとります。ですので、外部指導員が入ったところから、学校の先生が抜けていくような形です。それも急にやると子供達にも大きな影響があるので、とりあえず今の2年生が3年生に上がって3年生の代が終わるまでは外部指導員が入っても、顧問の先生には土日も含めてついていただく、並走する形を6月7月まではとって、そこから外部指導員の方が徐々に単独で指導に入るという形を取っていく予定です。ただ、それがあつたとしても今問題になっているのは、外部指導員として土日指導に来た方について、保護者の方が「あの方が来るなら行かせたくない」と、というようなことをおっしゃる方もでてきていて、そうすると土日に試合がありまして、これまでの想定では外微指導員の方に引率してもらう予定でしたが、「その方が来るなら行かせたくない」と、いう方がでてくると、試合参加が難しい状況がでてきます。そうすると大会だけは顧問の先生に行ってもらおうとか、そのような柔軟な対応も今後検討しなければならないのかなというのとはひとつでできております。それから指導者の資格というのは今のところ決まった資格というのはありませんが、今のところ先日2月18日県で外部指導員の研修会やりましたが町としても外部指導員になっていただく方には、今後開催される県の研修会には必ず参加していただきますし、3月22日には4月から外部指導員になっていただく方向けで、ガイダンスを町として行います。指導方法の注意点や怪我の対応やそういうところについては基本的にガイダンスでお話をします。それからトラブルがおきたときの責任ですが、町教委が派遣している外部指導員の方については町教委が責任者です、ということもはっきりとお示しするということになっています。その中で今皆さんからお話ししてきましたが、今のところ我々の視点として中学生をどう育てるかというところに、メインに今目が向いているんですけども、長期的にみたときには全世代の町民に、どう文化スポーツに携わってもらえる環境を作るのかという視点が今後長期に見たときに必要になってくる、そうしたときに、例えば町内にある文化団体とか、スポーツ団体の方々に一度「今地域移行というのが進んでいるんです」ということを「指導してくれる方を探しています」ということを周知する機会をいずれそういう機会をもってその中でやっていただくという団体があれば中学生が、「今大人の団体だけけど、中学生もそこに入る」スポーツ少年団で中学生の中で今までやっていただけど、中学生になってもスポーツ少年団に継続して入りたいということもいずれは考えの片隅にあってもいいのでは。ただ、今はそれをやってしまうとなかなか動きが難しくなってきますので、まずは、今の形をなるべく崩さないような形で地域移行土日から進めていって、それがあ程度ルールに乗ってきたとこで、じゃあ次の展開としてどう考えるかということも必要なのかなと個人的には思っておりました。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。これ振り出しに戻るような話しですが、やはり手探りをしながら進めていくという現実がそこには間違いなくありますね。来年度予算措置の中身をちょっと今見て、施政方針の最終纏めを朝から3回位読み返して今見ていまし

たが『コーディネーター役』地域移行に関わる『コーディネーター役の存在』はどうしても必要なんだろうなあ、それにかかわる予算措置が来年度されているということ。これ正しい認識ですか、ということですね。時間がなくなってきましたので、最終的に皆さんに一言ずついただきますが、文化部に加入している生徒は4人に1人いるんですよね。文化部の子供達に対する対応ということで一盃森先生のところでありますが一言ずつ先にお話しただいてよろしいでしょうか。では舟山先生お願い致します。文化部の子供達に対する対応です。

(舟山委員)

はい、そうですね、少人数の学校ですからね、部活自分でやりたいようなことなかなかできないと思うんですが、できれば今お話し片倉先生からあったように、結構町でもいろんな文化活動やっていますよね、そういう方達を毎回ではなくても月に1回位招へいして、指導してもらうなど話ししてもらうだけでも、レベルの高い文化に触れる機会があればいいかなあと思いました。

(齋町長)

はい、ありがとうございます。文化協会は50周年記念式典というのがありましたけど、会場内には私より若い方がひとりもいなかった。ひとりもと言ったら失礼ですが、ほとんどいなかったという状況です。そこに子供の顔があつたらガラッと雰囲気変わったんだろうあと、まあ余談でございました。一盃森委員お願い致します。

(一盃森委員)

はい、あの、これもまた乱暴ないい方ですが、文化部の皆さんそもそも土日あまりやらないということもありますけど、吹奏楽部に関してはえずこホールが協力していただけるというお話伺いましたので、全面的にああいう環境があるんですから、もう丸ごとお願いするつもりでも、そうすると金ヶ瀬中学校と大河原中学校と一緒に合同で練習ということもできるでしょうし、と思っていました。当面は町内文化部の皆さんに関しては大丈夫かなと思います。勿論今お話しありましたように、顧問の先生だけではなくてゲストティーチャーでもいいですから、平日の活動のときに文化協会の皆さんのなかでお出でいただける方に来ていただいてご指導いただくというのも、あつていいと思います。

(齋町長)

はい、ありがとうございます。えずこホールに関わる来年度の事業の取り組みの中に、『地域移行に関わる支援』ということが入っておりました。それで冒頭ちょっとこのこともちょっとは皆さんにご意見いただかなくてはと思っていたところでした。では丹羽委員お願い致します。

(丹羽委員)

はい、基本的に4分の1は文化部というお話しでしたが、先ほどの予算の話しがでましたが、とても大事な事だと思います。町の長期的な将来を見据えた予算ですので、少子化は目に見えていますよね、「さあどうやってその子供達を大河原町に呼び込むか」という予算の問題なんです。つまり子育て、教育、部活動の支援、そのものにお金は潤沢とはいわなくても、ある程度回せられるなら若い親が『大河原町に来たい』となるんです。是非そういう予算を立ててもらいたいと思います。文化部については、まあいいんじゃないですか、やはり部活の方が心配ですよ。土日祝日のそちらの方をうまくやっていただければいいのかなと、一番いいのは指導員がいらっしゃらないならば、親が、それで先生がいらっしゃらないならば、親がその時は残業って、先生から親に言ってもら、ということでもいいのでは、それが一番具体的な話しかと私は思います。とにかく予算、よくよく考えていただいて、鈴木教育長が本当に子供達の将来の幸せの為に考えていらっしゃるのか！となると、やはり若い親は大河原町に興味を持ちますよね、必ずそうなると思います。そうあってほしいと思います。

(齋町長)

はい、ありがとうございます。答弁も含めて求められてはいないですが(笑)、地域全体をみてもトップリーダーですね、教育、子育て支援、それをしっかりやれている町だと私も熟知しているところでございまして、PRが足りないということであればさらにこれからもお話ししたいということでございます。片倉委員お願い致します。

(片倉委員)

はい、私も文化部そんなに土日活動しているのかなあ、ただ吹奏楽部は数が結構いるので大会にはでているのかなあという感じはしているので、合同で練習すると切磋琢磨して両方の中学校にもいいのかなあと思います。文化部はどんな活動しているかはちょっと分かりません。外部の指導員さんがいて、吹奏楽とか教えていただくと上手になるかと、私は吹奏楽部だったんですが、外部の方が来て専門的な事を教えられると結構皆集中して聞いて、いろいろ教わると凄く楽しく、合同で、私は角田でしたが当時私の吹奏楽部は合同で大河原中学校に来た事あるんです。吹奏楽部集まって各中学校の楽器部門で集まって皆で教えあってというのがありまして、それは結構楽しかったので、金ヶ瀬と大河原町結構人数いますので、集まって教えあったりすると切磋琢磨していいのではと思います。えずこホールもあるのでいい環境で練習ができるのではないかと思います。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。残り 17 分となりましたが、どなたか一言ずつ感想でいいですので・・・2 分位でお願い致します。櫻田課長お願い致します。

(櫻田課長)

はい、先ほど教育委員さんからお話しありましたが、『責任』という問題、たいへん大きな問題であると認識しております。教育委員会の方から指導員さんのほうに声がけしておって、例えばの話として教育長からもお話しありましたが、『役場職員』であるとかそういうことがひとつの補完する材料になりうることはないかと考えておりました。以上でございます。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。木村課長どうぞ。

(木村課長)

はい、来年度の予算措置のお話しありましたが、現状は部活動の地域コーディネーター1 名体制ということで、ただ時間制限等もありまして、フルタイムではなくて週 3 日というかたちで今年度は進めてきました。来年度は 2 名体制というかたちで、さらに指導員等の募集選定に力を入れていくと考えております。現状も各部活、保護者さんと部活の顧問の先生の方から話を伺いながら、部活に協力されている保護者の方もいらっしゃるの、その方々を通して指導員の募集を進めているところであります。先ほど専門監からもお話しありましたが、なかなかこちらで探す指導員と、保護者と町の部分、生徒となかなか課題はあると考えております。さらに体制を強化して、指導員の募集と選定の方に力を入れていきたいと思っております。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。南小学校に P T A の O B 会で『もがり会』がありまして、『もがり会』の事務局長、町にとって統括課長です。

(菊地課長)

うちも子供 2 人いますが、中学校、小学校離れてから暫く経って部活動の状況が今どのような状況なのかつかめないところではありますが、私の子供達がいた頃は、先ほど話しありましたが、親達が『親子会を作って部活動を支える』という体制が整ってありました。いずれにせよ、今の話を聞いておりますと今までは部活動については『学校にお任せ』ではないですが、町としても『学校の事なんだ』という意識が強かったんですが、地域移行に関してはあらゆる面で役場、町自体が関わっていかなくてはならないなと改めて感じました。スポーツ行政にするのであれば、幸いにして大河原町長部局の方に『スポーツまちづくり推進課』を設置した、さらには教育委員会の中には生涯学習、

文化面での支援もできる体制が整っていますので、町として大きく地域移行に関わって行くべきなのかなと感じたところです。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。教育長に10分残しますが、小野寺補佐お願い致します。

(小野寺補佐)

はい、やはり部活動の地域移行でございますが、様々な課題があるなぁと改めて感じました。一番は『子供達の為』ということですので、ひとつひとつ課題を解決しながら教育長おっしゃったとおり手作りではございますが『子供達に何が出来るか』を考えながら、進めて参りたいと考えております。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。橋本係長お願い致します。

(橋本係長)

はい、昨年度から私生涯学習課でこの問題取り組ませていただいて、今回久しぶりにこちらの話題に触れたという感じです、昨年度説明会で紹介された事例ですごく印象に残っておりましてのが、栗原市の志波姫中学校の取り組みがありまして総合型地域スポーツクラブが全面的にバックアップしているというものだったんですが、元々合併前で町にひとつしかなかった中学校を町全体で盛り上げようとするところからスタートしたものだだったという事で、大河原町も町全体で盛り上げていくという観点や取り組みや考え方で中学校の部活動の地域移行を取り組んでいくということが必要になってくるのかなということで、皆様のお話を伺いながら考えていたところです。以上です。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。ひととお話しさせていただきました。なかなかこの場の集約は難しいわけですが、また、集約しなくてもいいのかなと思いながら途中進めてまいりましたが、教育長よろしく願いいたします。

(鈴木教育長)

はい、金ヶ瀬中学校のある部活で、『自分は優勝したい』というような部員と『いや、僕達は皆と仲良く楽しく過ごせればいいんだ』という部員が、その意見の対立で部活を辞めた子もいると聞いています。これが学校教育のなかでのひとつの事例としてこういういろんな意見、考えを持っている人がいて、じゃあどうすればいいかとい

う事を、考えるいい機会になったのではないかと私は思っています。そのなかで、現在は部活動というのは学校教育の一環という位置づけです。学校教育の中で子供達をどう育てていくかということを問われているわけですが、ただ、教員の働き方改革が入って、『教員が土日も放課後も背負うことないよ』というような、風潮ができてきて、アンケートを取ると休日の部活動を指導してもいいよという教員は3割位しかいないんです。他県も同じなんです。3割の先生にお願いして、後、残りは企業とか、菓匠三全さんとか、アイリスオーヤマさんとか、足を運んで、そちらの方で指導者も見つけないかとこれから思っております。私は今の学習指導要領という、学校教育の一環であれば、全ての子がやりたい、すべての子がやりたい部活に入れて活動できる、そういうことがいちばん大事なんじゃないかと思っております。将来学校教育から全く消えます、社会教育になった場合に、やはり町長おっしゃっていたように『お金のある家庭』と『お金のない家庭』で、そこのクラブに派遣できる家庭とできない家庭が出てくる。つまり二極化が進むのではないかと思います。金持ちがスポーツに親しむ、お金のない家庭はスポーツができない、そういうようではなくて、私はどの子もある程度活動ができるような環境を整えてあげたいという思いで今のところ、手作りで地域の人達の力を借りて子供達の活動を支えてあげたいという思いでいます。これから学習指導要領でどうなるか分かりませんが、そういうなかでの子供達の未来を担う子供達が運動や文化に親しむというのを与えてあげたいと思っておりますので、町長もいろいろとご理解いただいておりますので、心強いと思っておりますがこれから課題沢山ありますが、ひとつひとつクリアしながら進めていきなれないと思っております。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。我が町の将来を担うのは子供達ですので、また単に部活の地域移行という話ではなくて、様々な立場の人との関わり、民間企業もそうですよね、いろんな人の力があつたらいいのかもしれないし、そういうなかでは、このような議論を通してこれからも我が町の『町づくり』あるいは『人づくり』、そのことが真剣に議論されていく、町としてもしっかりと対応していくということが大事なかなと受け止めたところです。纏める必要はないですが何か最後の最後に一言これは言いたいという方がいれば教育委員の皆様の方から、どうでしょうか？ はい、どうぞ丹羽さん。

(丹羽委員)

はい、今のスポーツとはちょっと違うかもしれませんが、小学校の教諭、中学校高校とあるわけですが、中学校の先生方給料もっと上げてあげてあげるといいんですけどねほんと、小学校より中学校の先生の方が部活の事とか考えると大変じゃないかと思えます。小学校の前も中学校の前も車で通る事ありますが、大体ついているのは中

学校の窓ですよ、職員室は。一番高いのは高校と私は聞きました。小学校と中学校は同じですから、中学校の給料上げるべきですね、中学校の先生がそうおっしゃっていました。本当はそうあるべきだなあとと思いますね。

(齋町長)

はい、県職員なんですね、町の出番ではないところですが、お話しとしては、多分皆同じ思いかたと感じたところです。まだ時間がありますが、はい、どうぞ。

(丹羽委員)

はい、教育長おっしゃっていましたが、3割部活動やってもいいんだという話がありましたが、私は3割もいらっしゃるのかと逆に思いました。今どきなので自分のプライベートな時間は家庭だけで満喫したいという方が多いのかと思いましたが3割の方は積極的に子供達と関わって部活動やるのはいいんだ好きなんだという方がいらっしゃるということは、私にとっては嬉しいと思いました。でもこれから若い教師を目指す方々は減ると思います。要するに休み時間が多いところに就職するわけですよ、給料が高いところに就職するわけですよ、そういう意味では中学校の先生給料上がると...そう思います。

(齋町長)

はい、町で任期付教職員というのをもちまして、主に学力向上を目指した対応ですが、そういう必要性があれば、先ほどコーディネーター、地域移行のコーディネーターの予算措置の話しましたが、率先して進めていきたいと町としては考えているところでございますので、ご理解をお願い致します。もうひとつ大丈夫ですね、何か委員さんの中からありますか？

(丹羽委員)

はい、子供達の部活動、子供達の幸せを考えながら話合いができているということは子供達知りませんよね、親も知らないと思います。なのでこれはとても素晴らしいことだと思います。ほんとうはこういうことをやっているんだよということを町民も知らないといけないと思います。そして町民自体も子供を持つ親だけではなくて、町民一人ひとりがこういう自覚をもってより良い子供達の教育の育つ場として大河原町は素晴らしいんだということで、皆さん働きかけて、『ひとり一件当たり500円ずつ寄付しましょう～町に～そのために～』なんて、そういう寄付の話しも町にあるといいですよ。そういうのいいですよ、全国的に、教育の支援金というのは、そういうものが大河原町にあったら面白いですね。『1人100円でもいいんだ』みたいな感じでね、そういうの考えられませんか？

(齋町長)

はい、子育て支援で取られると大騒ぎになってますが(笑)

(丹羽委員)

考えてみてください、今働いている方々も将来は年金生活ですよ、その時支えてくれるのは誰かという、若い人達です。その若い人達を自分達の手で支えて伸ばしてあげて給料を沢山貰える社会にして、そうすると自分達の年金も安心してもらえるとということで自分の利益にも繋がるということで自覚してもらいたいですね。

(齋町長)

はい、ありがとうございました。これで総合教育会議の進行役終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

(事務局)

はい、どうもありがとうございました。それではこれで以上をもちまして大河原町総合教育会議を閉会させていただきます。大変お疲れさまでした。